

ミカンハダニ撲滅大作戦!!

～その② ハウスミカン～



佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当

近藤 知 弥

近年、ハウスミカンではミカンハダニに悩まされる方が増加しています。

ミカンハダニは、ハウスは適温・無降雨のため増えやすく、一度増殖してしまつて抑えるのは困難です。

その上、毎年殺ダニ剤を複数回使用するため、ミカンハダニに対する殺ダニ剤の効果が低下してきているハウスもあります。

ハウスミカンのミカンハダニ防除のなかで、ビニル被覆前後までの期間が一番重要な時期となります。

毎年ミカンハダニに悩まされ、今年も悩まされた方は、今一度体系を再確認して今年の防除に取り組みましょう。ミカンハダニ対策は、先手必勝です。

被覆前後までが勝負

ハウスミカンのミカンハダニ対策は、被覆前後までにハウス内にミカンハダニがいない状態にすることが全てです。

この時期にミカンハダニが少しでも残っていると、後々多発生して、早い時期から殺ダニ剤を散布することになります。

そうになると、大事な時期に使用で



きる殺ダニ剤がなくなったり、ミカンハダニの殺ダニ剤に対する感受性が低下して、効果が低くなります(第一表)。

地域によっては、すでにほとんどの殺ダニ剤に対する感受性が低下しているハウスもあります。

しかし、ビニル被覆前後までの防除を徹底しハウス内にミカンハダニがいない状態にすれば、来年ハウスサイドを開放するまで防除をする必要がなくなります。

栽培期間中に手に負えなくならないように、これから被覆前後まできちんと防除を行い、ハウス内のミカンハダニを撲滅します。

被覆一ヶ月前までにマシン油乳剤を散布

マシン油乳剤は、他の殺ダニ剤の効果が低くなったミカンハダニにも十分な効果があるので、毎年ミカンハダニに悩まされるハウスでは、利用する方が今後の防除を楽にすることが出来ます。

被覆一ヶ月前までの防除にはマシン油乳剤九七%二〇〇倍を使用し、かけむらのないように丁寧に散布します。

ただし、樹勢が低下している場合は、マシン油乳剤の散布は控えてパノコン乳剤一、〇〇〇倍を使用します。

その場合、ミカンハダニの密度が高い場合は効果が低くなる恐れがあるので、少発生時に散布します。

なお、パノコン乳剤は土壌が乾燥しているときに使用すると落葉する恐れがあるので注意します。

被覆直前・直後の防除

被覆直前・直後に、モレスタン水和剤一、〇〇〇倍、コロマイト水和剤二、〇〇〇倍、オマイト水和剤七五〇倍のいずれかで防除を行います。

第一表 佐賀県内各地域ハウスから採集されたミカンハダニの各種殺ダニ剤に対する感受性

調査年	地域名	ほ場 No.	補正死亡率 (%)					ダニエモンフロアブル 12,000倍	
			コロマイト水和剤 5,000倍	パロックフロアブル 6,000倍	カネマイト水和剤 3,000倍	マイトコーネフロアブル 3,000倍	オマイト水和剤 2,250倍		パノコン乳剤 2,100倍
2005	神埼	1	○	○	○	○	○	—	○
		2	○	×	○	×	○	—	○
	浜玉	1	○	×	×	×	○	—	×
		2	×	×	×	×	○	—	×
	太良	1	○	×	○	○	—	—	○
	2006	小城	1	○	○	○	×	○	○
神埼		1	○	×	○	×	○	○	○
		2	○	○	○	×	○	○	○
浜玉		1	○	○	×	×	○	○	×
		2	×	×	×	×	○	○	×
		3	○	○	○	○	○	○	○
		4	×	×	×	×	○	○	○
		5	×	×	×	×	○	○	○
6		×	×	×	×	○	○	×	
7		×	○	×	×	×	○	×	
太良	1	○	×	○	○	○	○	○	

注1) —は未調査

注2) 補正死亡率が80%以上で感受性が高いものを○、80%以下で低いものを×

なお、昨年度の散布暦を参考にし
て薬剤を選択しますが、散布後すぐ
にミカンハダニの密度が回復してくる
ようであれば、感受性の低下が考え
られるため改めて他剤で対応します。
防除は、ミカンハダニの活動が活
発で薬剤がかかりやすい午前中（気
温二五℃程度）に行い、かけムラがな
いように葉裏まで丁寧に散布します。

開花期以降の防除

以上の被覆前後の防除によって、
ハウス内のミカンハダニは撲滅状態
となっているはずですが、しかし、開
花期以降にミカンハダニの発生がみ
られた場合、果径二五mmまでの幼果
期であれば殺ダニ剤は使用せず、マ
シン油乳剤二〇〇倍の単用散布で対
応します。

その際は、薬液が早く乾くように
晴天時の午前中に散布し、換気扇等
で十分に換気を行います。

なお、樹勢が低下している場合は、
マシン油乳剤の散布はせず、ロデイー
VPくん煙顆粒（二〇g/一〇〇㎡）
を使用します。

その場合、防除はミカンハダニが
極少発生時に行い、本剤は殺卵効果
がないため五〜七日間隔で二回処理
します。

サイド開放後の防除

ハウスサイドを開放すると、野外
からミカンハダニが侵入してくるた
め、問題となってきます。

対策として、極少発生時にロデイー
VPくん煙顆粒を使用し、パロック
フロアブルは収穫二ヶ月前程度を目
安に使用します。

パロックフロアブル散布以降にミ
カンハダニが増殖した場合は、ダニ
エモンフロアブル四、〇〇〇倍で対
応します。

なお、パロックフロアブルは殺成
去効果がないため、防除効果が目
に見えるまで七〜一〇日ほどかかるの
で、感受性の低下と間違えないよう
にします。

開花期以降の防除は、ハウス内に
ミカンハダニを確認した場合に直ち
に行います。そのため、日頃から毎
年発生しやすいスポットを中心によ
く観察し、早期発見につとめること
が重要です。

また、先にも述べましたように、
マシン油乳剤を利用することで栽培
初期での殺ダニ剤の使用回数を減ら
すことができ、後の重要な防除時期
を楽に対応できるようになります。